チーム医療が本格的に評価された第一歩

中医協専門委員　日本放射技師会会長　北村善明氏

日本放射技師会会長であり、中医協専門委員でもある北村善明氏は、診療報酬改定について次のようなコメントを寄せた。

「手厚い人員体制により多職種が連携し、質の高い医療の提供や病院勤務医の負担軽減にも寄与するような取り組みが評価されました。栄養管理チームや呼吸器装着患者の離脱に向けた管理体制（呼吸ケアチーム）など多職種からなるチームが評価されました。また医療機関の医療関係者とケマネージャーとの協働に対する評価、がん医療の推進に関する観点からキャンサーボードの設置に対する評価への加算、さらに医療安全対策への加算、チームとして行うがん患者に対するリハビリの新設が行われました。

これまでチーム医療については緩和医療に対する評価がありましたが、今回の中医協の議論では、本格的にチーム医療の論議がされ、評価されました。初めてのことではないでしょうか。そういう意味では、第一歩であると言えます。

ただ、医師の負担軽減という主旨での各専門職の評価では、チーム医療の評価とは言えない面があります。まだまだ各専門職のスキルの評価はされていないと思います。物から人へという流れを考えれば、各専門職の技術がさらに評価されるべきで、今後の課題と言えます」